

**KSKP****Threshold**

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ ニュースレター Vol.47

～すれっしょんど～ (出発点)

神戸薬物・アルコール依存リハビリテーションセンター

スレッシュヨルドとは、新たな出発点、飛び立つ場所という意味です

Drug Addiction Rehabilitation Center  
**DARC**

2025 年度が始まりました。一年があっという間すぎて思うように進まなかったことも多いように思いますが、仲間たちの成長というより、1年前と振り返ってみると顔つきが変わってきて顔が緩んできているのがよくわかります。依存症者は、常に緊張の中において奥歯を噛み締めて踏ん張って生きています。が故に依存症物質がその緩和剤になってしまいます。そんなところは自分でもわからないし、周りの人はそんなところに気がつきません。私の家には「虐待猫」が1匹います。貰ってきた時には全く姿を見せず寝室の一番奥の暗いところでブルブル震えていました。「なんでこんな猫を・・・」と思いましたが、1年くらいですかねえ、安心したのか姿を見せるようになりました。最初は毛色もまだらで汚かったのですが、きれいに普通の猫になっていきました。人に触られても怯えることもなくなりました。帰ってくると玄関まで迎えにくるようになりました。

私は最初、諦めていたのですが、安心することで変わっていった姿が自分の過去やダルクにいる仲間たちと投影してみると、私たちは回復できるし、何が必要なのかということを確認させてもらっています。

さっき古い仲間からの手紙が尼崎拘置所から届きました。「うめさんごめんもうだめだ助けて」と。私は不確かな未来を信じ、そこへ車を走らせる毎日を送っています。神に感謝。

一般社団法人 神戸ダルクヴィレッジ 代表理事 梅田靖規

自立訓練(生活訓練)神戸市障害福祉サービス事業所 デイセンター リカバリー

〒653-0041 兵庫県神戸市長田区久保町 7-7-18 ←郵便物はこちらへ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741 e-mail kobe.darc@gmail.com

共同生活援助(グループホーム)リカバリーホーム TEL078-647-7744 (神戸市須磨区)

リカバリーホーム 2&amp;3 TEL078-764-6988(神戸市垂水区)

SPEAK EASY(タコス&amp;お弁当販売) 神戸市長田区久保町 3-6-9 1F TEL 078-584-3902

指定就労継続支援 B 型(10月より)事業所 ぱっくやーど 神戸市長田区久保町 3-6-9

姫路アディクションサポートセンター 連絡は神戸ダルクへ

智頭リトリートヴィレッジ 〒689-1411 鳥取県八頭郡智頭町八河谷杉の木ランド テニスコート下

[www.kobedarc.org](http://www.kobedarc.org)

神戸ダルク

検索

## ダルクと少年院

## 播磨学園 伊上勝保

私と梅田さんとの出会いは、現在勤務している播磨学園と同じ敷地内にある加古川学園に神戸ダルクを開設された御挨拶で来られた時でした。当時、私は依存症に関する知識がありませんでした。それに加え、加古川学園内でも過去に薬物を使用した経験のある方やダルクの方が指導することについて、十分な理解が進んでおらず、残念ながら御指導をお願いするには至りませんでした。その後、何度か依存症の支援をされている方や当事者の方のお話を聞く中で、薬物を使用する気持ちは当事者の方でなければ分からないのではないかと思い、梅田さんに少年の指導をお願いできないかと連絡すると、快く引き受けていただきました。



実際に、梅田さんに行っていた少年たちへのプログラムですが、1回目はグループワークメンバーへ梅田さんからのメッセージ、2回目は、ミーティングと個別カウンセリングです。メッセージについては、参加メンバーのほとんどが梅田さんの生き立ちや薬物使用に至った経緯について共感していました。ミーティングでは、「自分の正直な気持ち」といったような内容で進められ、驚くことに、多くの少年たちが、「言いつばなし、聞きつばなし」のスタイルの中で、自分の生き立ちや辛かった思いなどを正直に話していました。今まで周囲から否定されることが多かった少年たちにとって、安心して話ができただけで、その後の個別カウンセリングでは、これまで行政機関等の面接では話せていなかった自分の気持ちや過去を語る少年もいました。日々少年たちと接している私たち職員にとってはショックなことでしたが、これこそが当事者の方だからなせる業であり、多くのことを語る少年たちにとっては貴重な体験になっていました。その後、少年たちの一部には、梅田さんと手紙をやりとりをする少年もあり、心の支えにもなっていました。梅田さんと少年たちとの出会い以降も、職員主導による薬物プログラムであるグループワークは続くのですが、効果として、少年たちそれぞれが抱えている課題についての理解を深め、支え合う場になっていました。

これらのことを通じて私が感じたことは、社会でこのように正直に自分のことを話せる人や場所はどれだけあるのか。そして、自分も含め多くの世の中の人はそのような場所を持っているのか。梅田さんと少年たちとのやりとりを見ていて、このようなことを感じられずにはいられませんでした。そして、人とのつながりの大切さを教えられ、成長させていただきました。また、梅田さんをはじめ、多くの当事者の方のお力をお借りすること、耳を傾けることの大切さを感じています。先日、ダルク女性ハウスの上岡陽江さんが、「当事者は通訳者」だと話されていました。当事者を馬鹿にして、話を聞かなければ、知りたいことを知ることはできないと。そして、ほとんどの当事者は10代に大変な思いをしているので、当事者を知ることは、子どもたちの問題も分かること。

今後、この取組が継続することを願いつつも、少しでも梅田さんたちのお力をお借りすることのないような社会、また、施設にいる方や社会にいる方が少しでも生きづらさを感じず、生まれて良かったと希望の持てる社会になることを願ってやみません。

最後になりますが、梅田さんには多くのことを少年たちや私に届けていただきありがとうございます。また、梅田さんと何度も一緒に来院していただいたヒロさんやミーティングに参加していただいた多くのダルクスタッフの方々に対して、この場を借りて感謝申し上げます。

## 僕の体験談

## サンちゃん

アディクトのサンちゃんです。ダルクへ来て丁度一ヶ月、NA のタグを貰う日にこれを書いています。春の穏やかな陽射しの中を『仲間』と共に、今日は畑で作業をして「ああ〜コレコレ。ダルクってこういうトコロだよな」で刑務所で想像していた通りの日々がようやくスタートしたんだという実感が湧いて来ました。

僕はゲイで、MIX(混血)で、クリスチャンです。あれこれ自己紹介をするともうの凄く長くなりそうなので、主だったところをサラッと。今までにすべて覚醒剤で3回服役しています。一番最初にクスリを使ったのは17歳のときです。親の会社が倒産したりで、高校を辞めざるを得なくなり、働きながらその借金の返済を手伝うことになりました。中卒だったので、飲み屋さんやらコンビニやら色々仕事を転々としてきましたが、稼げるのでゲイの風俗で自分のカラダを売ってお金を稼いでいました。

その時に酒などに混ぜられて、知らぬ間に違法とか何なのかとか分からず、シャブ漬けにされていて、知らされてコワくなり、19歳まで使わず過ごすも、それが逆に「なんだ、別に禁断症状とかないじゃん」となって、また使用するようになりました。

今までに不起訴も入れて5回逮捕されていて、1回目は21歳のとき、2回目は父が亡くなった直後、24~25歳のとき、1年4ヶ月服役後に父の借金も無くなったので、高校へ27歳から2年半行きました。この間、使用していなかったのに前科のために引っ張られて不起訴というのがあり、3回目その後無事高校を卒業し、大学へ進学し、クリーン期間が2年、3年と伸びていってましたが、大学入学と共にコロナ禍になり、それまで必死に構築してきた人間関係や様々な活動(キリスト教の教会の青年会副会長、広報委員、サークルの副部長など)が全て断たれてしまい、孤独に。だけど、そんな中でもヤク中達、モラルのない人達は会いに来てくれるということで、また再使用することに。31歳のとき、4回目の逮捕、1年10ヶ月服役、出所後、大学に復学しようとするも警察署が大学に通知したことで退学処分(しかも学費は返らず)その時の恋人ともすれ違いが続き、ヤケになり、出所後わずか半年で5回目の逮捕、1年10ヶ月、半年の一部執行猶予になるという経緯があります。

こちらへ来て『仲間』って言葉をよく言うようになりました。頭がおかしくて、いつでもどんなところでもマイノリティで変なやつな僕に『仲間』…。いるわけないって思ってたんですが、ちゃんとここにいました。いてくれました。30日のクリーン期間、まだまだですが、今までこんなにニュートラルにクスリのことを考えず、安心して過ごせたのは初めてです。これは『仲間』に与えられているクリーンなので、これから自分もだれかに与えられるようになりたいし、自分でつかんでるって思えるようになりたいです。

## 体験談

## まっちゃん

薬物依存症のまっちゃんです。神戸ダルクにお世話になり、1ヶ月半が経ちます。自分は過去に計4回の刑務所を経験しており、計12年の人生を棒に振りました。覚醒剤を始めて30年の大ベテランです。

今回刑務所を出てから1ヶ月半が経ち、クリーン期間がこんなに空いた事が自分の人生では無くて、毎日充実した生活を送っています。それと自分は極度の不眠症で依存性のあるマイスリーとかロヒプノールとか大量に飲まなくては寝られない体質になってしまい、日中からでも酒と睡眠薬を飲む習慣がついて、そのクセが治らなくて、それで車の事故を何回もしてもそれでもコリずに飲み続けてました。

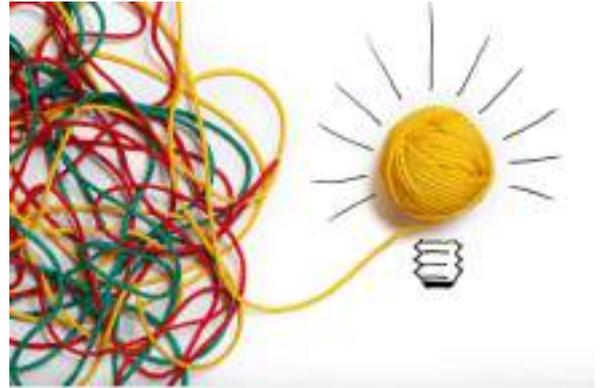
今回出所してから神戸ダルクの通っているクリニックに行き処方された薬がマイスリーとかロヒプノール依存性のある薬は出なくなり、依存性の低い薬を出されて眠れるのか大変不安でしたが、はじめは寝つきが悪くてロヒとマイスリーしか眠れないという考えが頭から離れられずにいましたが、日々が経つごとに自然に眠れるようになり、ダルク入所1ヶ月半で完全に出されてる薬で眠れるようになり、これだけでも回復したと思います。これからも覚醒剤もクリーン期間をのばしていき、回復を目指して人生を楽しんでいきたいと思っています。



## 糸をほどいていく

## ニッシン

「からんだ糸をほどいていかないといけませんね。ゆっくり休んでください」と勤務先の上司が僕に伝えました。1月3日、約5年以上のクリーンがなくなり、1月6日に連続使用し、再びダルクにつながるようになりました。上司からそのことを言われ、仕事を手放した自分は頭の中である事を思い出しました。このニューズレター「スレッシュヨルド」の由来で、海外の施設でのワークで”人間知恵の輪”のようなワークで皆からんだ手をほどいていくというものでした。



6年前に神戸ダルクにつながり、回復のプログラムを通じてクリーンをのばしていましたが、スタッフになりクリーン3~4年目、しらふの中で自分の生き方の問題で苦しくなり、精神病院に2回入院し、神戸ダルクを出て行きました。出て行ってからは福祉の仕事をするのですが、生き方のパターンは変わらず、鬱気があり、何とかしのいでいました。再発はしていないもののアディクシヨンの考え・行動が進行していきました。地元のNAにも通っていましたが、着実に再発へ向かっていきました。職場の上司に言われたとおり、生き方の問題が糸のようにからんでいる状態で、ほどいていく必要があるとは気付いていました。そうして気付いているものの病気の力がはるかに破壊力があり、あっけなくリプラスした自分はプログラムをし、もう一度クリーンで過ごせる生活の基盤を築くため戻ってきました。

もう一度ダルクに繋がる僕ですが、スタッフをしていたので恥ずかしくプライドもあったので、どんな感じで自分を迎えてくれるのか不安でした。が、暖かく仲間がハグしてくれたり声をかけてくれて、とてもホッとして安心しました。薬でよれていて食事もロクにとらなかった自分にとって温かな食事は救いで、生き返るような感じでした。

夜のNAでは知っている地方の仲間が優しい顔して「Welcome」をしてくれ、メッセージを届けてくれました。とても勇気をもらえ、嬉しかったです。つながってから前回のクリーンよりも気付くことや感じる事が多く、仲間にもそのことを話したら「今、本当の回復を味わっているんだよ」と言われました。2ヶ月がすぎてとても濃密な時間を過ごしています。

戻って来てから、少年院でのミーティングや学校講演などメッセージを届ける場にも多く足を運びました。またクリーンもないため境界線の問題にも線を引きやすく、自分の生きづらさ(抱え込みやすく、助けを求めることができず、人に任すことができない)といったものも生きやすく過ごしています。

糸のようにからんでいる自分の生きづらさをプログラムを使い、ほどいていけたらと思います。今回のリプラスで家族・職場・友達・仲間にも迷惑をかけ巻き込んでしまいました。まずは自分の回復しないので今日一日を大切にしていけたらと思います。また今回のリプラスで感じたのはメッセージの大切さでした。自分も何らかのメッセージが届けられるようなメッセンジャーになりたいです。

ありがとうございました。



## 節分

## やました

私は昨年 10 月 23 日に神戸刑務所から出所して、神戸ダルクに入所し生活しています。神戸ダルクは色々なプログラムがありますが、その一つに節分がありました。そのときのことをかきます。

節分や色々な行事は、家が会社をしていたので、そういう行事はしたことがありませんでしたが、神戸ダルクでは生まれて初めて豆まきを経験しました。

朝から鬼のお面を画用紙にマジックで書いて鬼の面を作り、豆を入れるマスを作りました。それと巻きずし作りです。

材料の購入から始まり、仕込み、皆で手分けして作業をこなしていきます。あーでもないこーでもないと話をしながら皆で一つの事に取り組んでいくことを神戸ダルクでは大事にしています。昼過ぎに準備が出来て、節分・豆まきの始まりです。

まずは、お荷役が手作りのお面をかぶり、外から部屋の中に向かって鬼が入ってきますとそれに向かって「鬼は外」と言いながら豆をまきます。ワイワイガヤガヤとこのような事をするのは小学校以来の事ですが、結構な年齢をしたおっさんが集まって豆まきをしてる姿はちょっと変わった光景です。その後は仲間の作ってくれた巻きずし、いわしの焼いたの一匹を恵方を向いてめいめい黙々と食べさせてもらいました。皆食べた後、おいしいおいしいと言っていました。普段とは違う時間を過ごさせてもらい有難かったです。その後、皆でワイワイ言いながら後片付けをしました。

僕が神戸ダルクに入所したのは、覚醒剤を二度と使用したくないと思ったからです。僕の鬼は覚醒剤です。朝から皆でプログラムに取り組みこれからも一日一日クリーンを続けていけたらいいと思います。



## 震災のつどい

## オジイ

私は大阪で生まれたので、この時の震災をまともに受けることはありませんでしたが、私もこのとき恥ずかしいながら大阪刑務所で服役しておりました。私にとっても生まれて初めて経験する大きな揺れで正直言って小机の下に首を入れていました。そして朝工場に出てテレビを観てあまりにも酷さに本当に驚きました。まるで神戸の街が戦争に遭ったときの様な焼野原で、本当に大勢の人が死んでいるのだろうと想像して心より手を合わせました。

その後神戸に行くこともなく、この度ある事でこの中間施設にお世話になる事になり、どうしても一度心から死んだ人の冥福を祈りたいと前々から思っていた事もあり、どうしても参加させていただくことを願い出たのです。前日の夜から行かせてもらい、竹灯籠に火を灯らせてもらい、その日は帰りました。あくる日の早朝よりまた会場に行かせてもらい、竹灯籠に火を灯らせてもらい、多くの人々の冥福を祈りました。本当に前に歩くことも出来ない人数の中でテレビ局やラジオ局のインタビューを受ける人達も多く、私も終わりまでいて、ボランティアの手伝い等をしました。

しかしこれ程の被害を受けながらこれ程までに立派に復興した神戸の街の姿を目の当たりにして人間の力というもの力は合わせればここまでやれるのだと私もこのような小さなことなどしておらず、必ず少しでも人の役に立つことをやらねばと改めて心から思いました。私も今はまだあることで回復の道を歩いている段階ではありますが、一日も早く病気を治して東北の震災、能登の震災に少しでも役だって今までの償いをやっていくぞと心より誓いました。

でも正直言ってこのような震災が今後地球上に起こらないことを心の底から祈りながら今年も来年も必ず参加をさせてもらうことを心から約束して今回の文として終わらせてもらいます。



## リカバリーデー

## ブッキー

リカバリーデーというフェスをすることをウメさんから告知されたのは今年の1月下旬だった。自分たちが打ち合わせや準備を始めたのが3月8日で練習も打合せも駆け足でとにかく時間が無いことが心配と不安をかきたてた。とにかく無我夢中でタコスの用意や会場のセッティングの用意をそれぞれの班で進めていった。自分はタコスのことを任されてとにかく少しでもおいしく、安全に来てくれた人に食べてもらえるように、そしてどうやって進めていけば限られた日数で土と凍らずに準備していけるかみんな意見を出し合いながらウメさんに確認をとりながらみんな少しずつ進めていった。「とにかくやるしかない、焦っても仕方がない」と毎日となえたり考えたりしていた。タコスのことはタコス班全員で一つ一つ確実に終わらせることを考えながら作業するように心がけていた。自分的にはそのことをかなり意識的に心に据えて準備作業をしていた。

3月14日のタコス生地の仕込みは全員でやったおかげで午前中に終わり、梅ジュースの試作と練習も出来たし、メニューと看板の写真撮りもわりとスムーズに終わり、全員で買い出しをして次の日の仕込みの打ち合わせも出来て順調に進んでいた。

3月15日、生地を作る作業を始めたけれど、みんな打合せでいたよりも作業に時間がかかってしまって、予定していた仕込みをすべて終わらせられないかなあとどれを優先するか、生地を焼きながらかんがえているときに、会場の準備をしていた仲間とマフさんが応援に来てくれた。すでに少しパニックに陥っていた自分に仲間とマフさんが「何か手伝えることある？」と優しい感じで聞いてくれたけれど、とっさに考えたことはウメさんのお客さんにそんなことさせて大丈夫なのかとかNAの人にそんなことさせていいのかなんて考えてしまい、すぐ返答することができずにニッシンに向かってどうしようと聞いていた。ニッシンがマフさんにミンチとサルサソースのスパイスを図ってくれるように頼んでくれてパニックになっていた自分は、すごく落ち着くことが出来た。この日は全部終わらないと思っていたけど、全員で力を合わせてなんとかやれることはやったと思える所まで終わらせる事が出来た。

当日は朝から雨が降ったりやんだりでどうなるかと思いながら車に荷物を積み込んで出発した。電車で行く間も心配なことが多かったけれど、仲間と一緒に話しながら行けたので落ち着くことができた。公園に着いて荷物を降してそれぞれの班でオープンの準備を始めた。途中で全員で朝礼をして、それぞれ準備の続きに戻っていった。

なんとかカフェとタコスの準備のめどがついて、リカバリーデーが始まった。ウメさんの開会の挨拶からのこのフェスの主旨を話した。前に口頭で聞いたときはあまり理解出来なかったけれど、画像や動画を使って説明されてウメさんがどういうフェスをしたいか、だいたい理解できたと思う。

タコスの販売は大きなトラブルもなく、なんとか進んでいた。始まってからはそこまでバタバタすることなく、落ち着いてタコスを作っていたと思う。ヨガの先生の話が終わって昼休憩が始まってタコスの注文が一気に来て、少しバタバタしていたけど、みんなで協力してなんとか乗り越えることができた。昼飯をみんな交代で食べることになり、順番に2人ずつ食事をした。もちろん、昼飯はタコスでした。お客さんにもマフさんにもダルクのみんなにも美味しいと言ってもらえて、とっても嬉しかった。小さな女の子が何回もタコスを買いに来てくれたときは心底がんばって良かったと思えた。

午後の部が始まり、BUNBUNさんのライブ、ミキさんの体験談、ウメさんとマフさんの話と、押しはいたけれど順調に進んでいった。最後はその時にいた人達とダルクのメンバーでミーティングをした。NAやダルクのミーティング以外で自分のことを話すことや一般の人の話を聞くことが初めてだったので緊張したが、やっていることはいつもと同じだし、顔見知りの人もいたので、気分が落ち込んだりすることなく、ミーティングを終えることができた。

今回来てくれた人はほとんどが何かしら依存症に関わっている人が多かったようだ。ウメさんの話では依存症とまったく関わりない人達がフラッと立ち寄ってくれるようなフェスにして自分たちアディクト達がどういう人間か見てもらい、話を聞いてもらう事で依存症がどういうものか知ってもらうことだった。

初めてのリカバリーデーを終えての感想は、大きなトラブルなく終わって良かったし、タコスもおおむね好評で心底うれしかったし、ほっとした。次回はもう少し落ち着いて準備を進めていけたらいいと思う。今回、イベントを催す側として参加して、仲間達やウメさん、マフさんに助言をもらったり直接助けてもらったりして、色々意見をかわしながら時間が限られている中でトラブルなく終わって良かったと思う。



## 活動報告

2025 年 1 月

ダルク大きな和理事会

播磨社会復帰促進センター薬物教育講義

震災のつどいボランティア参加

フィリピンコンベンション参加

播磨社会復帰促進センター薬物教育講義

2 月

恵方巻き作り&節分

松山刑務所薬物離脱指導講義

薬物依存症施設職員研修参加

朝日新聞取材

トラウマインフォームドケア勉強会開催

女子の回復セミナー参加 ZOOM

依存症セミナー in 姫路開催

アルコール依存症施設職員研修参加

加古川学園ミーティング & 個別カウンセリング

西脇南中学校薬物乱用防止講演

加古川学園家族教室 & 講義

3 月

NA ワールドサービスカンファレンス参加

有園博子基金申請プレゼンテーション参加

加東市立米田小学校薬物乱用防止講演

トラウマインフォームドケア勉強会開催

リカバリーデイフォーラム in 神戸開催

兵庫県立東灘高校薬物乱用防止講演

加古川学園ミーティング & 個別カウンセリング

依存症セミナー in 神戸開催

岐阜ダルク 20 周年フォーラム参加

群馬ダルクワークショップ開催

12ステップワークショップ in 鳥取参加

高松刑務所薬物離脱指導講義

加古川学園ミーティング & 個別カウンセリング

AA50 周年コンベンション参加 in さいたま

定期開催

姫路家族教室 毎月第2土曜日

神戸ダルク家族会 毎月第4日曜日

垂水病院すまーぷ参加 毎週金曜日

ヨーガプログラム 毎月2回

明石依存症相談 毎月1回

子ども食堂 毎月第2、第4土曜日



## 近況報告・活動予定

2025 年度ですね。年齢のこともあり少し検査入院します。走りすぎたのでしょうか。元気に戻ってきて今年の展望を遂行できればとは思っています。2025 年度は大きく神戸ダルクが舵を切る年になります。

社会の変化に対応すべく、兵庫県内での様々な団体との繋がりと私たちのビジョンを語り、伝え、手を組む取り組みの準備ができてきました。4 月にはある団体との結成イベントにも同志として関わり参加させていただき、ビジョンを自分たちの目で見ていきます。準備万端です。

次回のニュースレターはこの後すぐに発行いたします。助成金のお礼や、フィリピンで行われたリージョナルコンベンションに参加しての話などをお伝えできればと思っています。

### 神戸ダルク ヴィレッジ広報誌「Threshold」 年間購読のお願い

この広報誌「スレッシュヨルド」の年間購読のお願いです。障害者低料第三種郵便物の取得が遅れており、皆様をお待たせしてしまいましたが、漸く第三種郵便物の取得ができました。年間購読費は年6回発行で2000円になります。お申し込みはFAX、電話、メール、または同封の振込用紙にてお願いいたします。お申し込みの際は「住所・氏名・電話番号」を必ず明記ください。

※ 配布用に、当ニューズレターを置いていただけた場合はご連絡ください。たくさんの方に読んでいただけるように希望数を郵送いたします。私自身もこのような広報資料を見つけたことがきっかけで回復の場所を見つけることができました。ぜひ、まだ苦しむ依存症者の助けとなるようにご協力ください。

### 支援会員のお願い

神戸ダルク ヴィレッジでは、支援会員として、活動を支えてくれる方を募集しています。

兵庫県の薬物依存症者を助ける活動をご支援ください。

**個人会員は1口 3000円（ニューズレター定期購読料を含む）からになります。**刑務所内の方々との文通による支援のための切手代などに使わせていただきます。

ご連絡をお待ちしています。

領収書希望の方は一言ご記載ください

神戸ダルク ヴィレッジ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail: kobe.darc@gmail.com

### 電話相談 来所による面談 メール相談

相談の内容に関しての秘密は厳守します

逮捕・勾留中の方々への支援

刑務所・拘留所・留置所への面会、手紙などによる逮捕者及び保釈中の方への裁判での情状証人出廷や、刑務所出所者への薬物からの回復を希望する方の引受人としての指導対応や、出所前面談など、他機関と連携しながら対応しています。また、資料請求などもご連絡いただければ対応いたします。

★月曜～金曜 10:00～17:00

メールは24時間OK。

神戸ダルクへのご献金・献品のご支援本当にありがとうございました。

開設から今日までをたくさんの方々に支えられてきたおかげで、仲間一同、回復のプログラムに取り組むことができています。心より感謝いたします。これからも暖かく見守ってください。

#### ご献品

林谷 みどり 様 山崎 圭 様 西脇市立西脇中学校 職員 様 加東市立米田小学校 様 生田 茂美 様

#### ご献金

渡辺 幸子 様 日本基督教団 神戸栄光教会 様 力新堂法律事務所 茅根 豪 様 林谷 みどり 様  
カトリック仁豊野教会 様 間 明子様 幸地クリニック 幸地 芳朗 様 木村 真知子 様 中西 礼皇 様  
(令和7年1月6日～令和7年3月8日到着分・順不同 ※購読料・支援会員費の方を含む)

## 寄付や献品のお願い

引き続き、非常に苦しい状況の中、お米などのご支援ありがとうございます。昨年度はお米の寄付をたくさんいただいて、なんとかみんな空腹で苦しむことなく、お腹いっぱいご飯を食べることができました。また、ご家庭で余っている食料品（米、野菜、乾物、味噌、醤油など）から洗濯洗剤やシャンプー、石鹸、などの日用品などがございましたら、神戸ダルクまでご献品ください。たくさんありましたら、車で取りにいくこともできます。洗剤などもたくさんいただいたので非常に助かっています。今非常に助かるのは、食材や日用品です。心苦しいですが、ご協力をよろしく願います。また、ボランティア活動も気軽にお声掛けください。私たちは体力だけありますので、荷物運搬など気軽にお声掛けください。日々の感謝をそのようなことで返したいと思っています。

ご寄付振込先口座 ゆうちょ銀行

口座番号 00950-9-275937

口座名 シヤ) コウベダルクヴィレッジ

店番 〇九九 0275937

献品の送り先住所 653-0041 神戸市長田区久保町 7-7-18

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

#### 編集後記

私の年齢も50歳を超え体力的にも無理ができなくなってきて、あの頃のように走り回って回復支援していた頃が懐かしいという思いと、もっと昔みたいに動けたらという悔しさの葛藤の中で生きています。いつも私はこの編集後記を当然ですが全部編集して最後に肩の荷を下ろして書いています。中日新聞に「中日春秋」というコラムがありました。新聞は読みませんが子供の頃から楽しみに読んでいて、こんなコラムが書けるのが小さな夢でした。コラムの気持ちでいつもこれを書いていきます。

神戸ダルク ニュースレター Threshold (出発点) Vol.47  
編集人 一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 梅田靖規  
印刷 プリントバック  
〒653-0041 兵庫県神戸市長田区久保町 7-7-18  
TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741  
e-mail kobe.darc@gmail.com  
www.kobedarc.org  
価格 1部 100円 年会費 3000円  
(購読料は年会費に入ります)  
発行人 関西障害者定期刊行物協会  
〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4階